

# はじける！ 飛び出せ！青春！

九月九日、雲ひとつない晴天に恵まれ、第六十二回脇町高校体育祭が行われました。脇高生の競い合う姿は、連日の猛暑にも負けないうほどで、とてもかっこよく見えたのではないのでしょうか？去年、一昨年と一年生が優勝を独占してきましたが、今年は三年生が念願の優勝を果たしました。今年も、様々な競技で各クラス火花を散らし、白熱した体育祭となりました。脇高祭の最終日を彩る体育祭。各クラス最高の笑顔で輝いている姿は、今でも印象に残っています。



第六十二回脇町高校体育祭は各学年の入場行進と華やかなパフォーマンスで幕を開けました。グラウンドの北側と東側には、色鮮やかなアーチが並べられ、各クラスが見せる個性豊かなパフォーマンスは、体育祭を大いに盛り上げてくれました。そして、開会式が行われ去年優勝の十五HRから優勝旗が返還されました。いよいよ競技が始まりました。一～三年の

選ばれた走者が脇高のグラウンドを思いっきり駆け抜ける百メートル走。バットを使ってフラフラになりながらゴールへ向かう宇宙遊泳。歩幅と心を合わせてゴールを目指す十人十一脚。チームとメンバーと力をあわせてゴールに上陸する台風の目。一発逆転も夢じゃない！障害物競走。風船を膨らました後に上から座ってパンツと割るけつ圧競争。そして来賓、職員、PTAによる

ボール蹴り。など、多くの競技が午前中に実施されました。午後からはクラブ対抗リレー、縄跳び競争、混成リレー、借り物&呼び出し競走、四百メートルリレー、フォークダンスが行われ、各クラス白熱した戦いを見せてくれました。閉会式では成績発表及び表彰が行われ、今年の優勝は35HRとなりました。その後、生徒会長挨拶を終え、全校生徒で校歌を歌いました。肩を組んで歌うみんなの表情は、笑顔で満ちていて、まさに「The Brilliant Days」となりました。



## 優勝35HR 室長にインタビュ

今年度脇高祭体育の部の総合優勝を果たしたのは35HRでした。そこで35HRの室長にインタビューしてみました。



編集者（以下編）：優勝しての感想は？

田所さん（以下田）：みんなが一つになって最後の体育祭で優勝できてとても達成感があり、嬉しい気持ちでいっぱいです。  
編：競技で印象に残っていることは？

田：みんなそれぞれの競技を頑張っていました。特に齊藤義郎くんのケツ圧競争のタイムは、多分世界記録だと思います。  
編：これからの目標は？

田：この体育祭、文化祭の力をバネにして全員が第一志望に合格すること。そのためにみんなで一緒に勉強していこう！

## 十八枚の絆

体育祭は競技の部と表現の部があり、表現の部では各クラスを代表するようなアーチとパフォーマンスで競い合います。



一年生は初めてのアーチ制作にも関わらず、各クラスともレベルの高い戦いとなりました。初めての制作なので、なかなか思うように作業が進まず、どのクラスも完成までに時間がかかり、苦労をしているようでした。ほとんどのクラスがキャラクターをモチーフとしていて、カラフルで鮮やかな作品となっていました。そんな中、一際目立っていたのが、表現の部で優勝した13HRのアーチでした。赤と黒のグラデーションをバックに、独創的なドラの絵が描かれ「はっ」と目を見張るようなアーチは、存在感あふれる作品でした。